

発行所 中央大学白門物理会
連絡所 〒112-8551 東京都文京区
春日 1-13-27 中央大学
理工学部物理学科準備室
発行人 志村元良
編集人 鶴田 将
電話 03-3817-1767
FAX 03-3817-1792
e-mail nakamura@phys.chuo-u.ac.jp

誓ひの殿堂

作詞 和田芳恵
作曲 諸井三郎

一 若き血潮みなぎる
中央の意気にみよ
栄光は輝として
我等が上にあり
誠はずや新興中央
二 我等が前途希望に満ちて
みよ中央の大ゆくところ
陽もかげりてあはし
若きこそ力こそ我等が命
●誓ひの殿堂について
約五十年前に作られた旧国歌
「誓ひの殿堂」は、昭和六年（日
本）から昭和十一年（日）まで
社用として、後、曲調に於いて
わが中央の面目を充分に示してい
るといわれ、昭和二十八年（日）まで歌わ
れた。

最高のカメラに
誇りをもつて

ニコンの開発陣に同窓を訪ねる



「光学通り」の表示 大井町駅から西へのびる

出席者

鈴木憲三郎さん（一八期）
映像カバ設計グループリーダー
村上研太郎さん（二七期）
光学設計部
萩原幸徳さん（三三期）
光学設計部
編集部
鶴田（三期）、杉本（四期）
関根（五期）、吉川（一八期）
庄司（三三期）
清水（法四三卒）

この文字、音の響きには不
思議なものがある。
ニコンのカメラを持った時のあ
の質量、シャッターをおろし
た時の満足感、技術の結晶、
最高の緻密さなどカメラのエ
リートとしての表現にはあ
まるものがある。

株式会社ニコン

われわれに身近なカメラ
を代表として映像・情報分
野、健康医療・生活関連分
野、産業関連分野で世界を
代表する光学機械メーカー。
一九一七年創立、発起者
は三菱財閥の岩崎小弥太氏。
八八年、日本光学工業
（株）から現社名に変更。タ
イに工場をもち国内各地に
も独立会社の工場を持つ。
製造はこれらの工場が担当
し大井の敷地は開発部門。

カンパニー制を導入。
東京・品川区に「光学通
り」という道がある。町の中
になぜ「光学」？そう、この道は
日本光学工業（前社名）への
通い道なのだ。大井町駅から
西へ光学通りは続く。昭和
六一年に西大井駅が開業す
るまではみなこの道を通つて
いたことだろう。

この町はまた伊藤博文の
土地でもある。墓所もあり、
名にちなんだ「伊藤中学校」
等各所にその名を残す。都
会の中心でありながら文化、
文明の息吹を感じさせる。
こんな土地に技術の集団ニ
コンがある。

中央大学の卒業生も多
い。物理学科からも九人の
OBがいる。うち四人が光学
の設計に携わる。映像事業
部だけでなくカメラとスキヤ
ナー、デジタルカメラなど産
業用機器として顕微鏡や露
光装置（ステッパー）などを扱
い、それらの製品の心臓部で
あるレンズの開発や光学の開
発にかかわっている。光学部
門全体の八十％は物理系の
出身という。

◆ニコンの魅力とは
利益よりも、良いもの、良
い製品という考え。
これは会社と製品に對す
る自信と愛着と言えよう。
これがない前提で丁寧な作
り。常盤を乗り越えた発想で
思い切ったことを模索してス
テップをすすめて開発をす
ることが必要と語る。

◆新しい技術へ
常盤を乗り越えた発想で
思い切ったことを模索してス
テップをすすめて開発をす
ることが必要と語る。

第三回
「白門物理会総会」
のご案内

第三回総会を11月18日
（土）に開催いたします。
「白門物理会」も発足して
二年が経ち、活動も少し
ずつ形に成りつつあります
がまだ十分とは言えず
もありません。会員皆様
には総会に出席され、「白
門物理会」がより良くな
るよう多彩なご意見ご希
望を話していただきたいと
思っています。

余白

古代遺跡からも「最近
の若いものは…」といった
記述が見つかるのだそう
ある。古典落語の世界で
隠居さんが嘆いているだけ
ではない。どうも、古今東
西を問わず、年長者が若
者の言動にまゆをひそめ
たくなるのは、ごく普通の
心理状態のようである。だ
から、「最近の若いものは
…」と一言いなくなるのは、
裏を返せば歳をとった証
なのかもしれない。とはい
うものの分ちやいるけど
言わずにはいられない、と
いうところがある。

中大物理学科も創立
30有余年。卒業期が1桁、
あるいは、2桁でも10期代
の方々は職場や家庭で、正
に「最近の若いものは…」
と感じることが多いに違
いない。

最近、小耳に挟んだはな
しを披露しよう。
「おまえ変だよ。何でそん
なことするんだ。俺は絶対
しないぜ。おまえ何考えて
んだ。」
この会話の相手は一体何
をしたというのであろう
か。そう思いながら、聞く
とはなしに聞こえてきた
彼の続きの言葉
「奨学金は返さなくちゃい
けないんだぜ。親に出させ
りゃいいのに。」
これは耳を疑った。
私は思わず、
「変なのはおまえだ。おま
えこそ何考えてんだ。」
と心の中で怒鳴っていた。
電車の中での出来事

年にも花が咲く立派なヤツでな
期会は「白門物理会」同様最
初からあったのではない。熱心な
男が一念発起して立ち上げた
のである。卒業後四十年を経て、
四百名中三百数十名の消息を
執念でたしめ、懇親会に百名
を越す同期生が集まるまでに
したその際出席を確保すべき
「恩師が年々品薄、入手難に
なるのが悩みである。寄付を
募って母校の校庭に桜の植樹も
した（俺たち先がいないんだから
苗木という訳にはいかない。翌

である。この若者が何処の
誰かは分からない。多分中
大生ではない。
無論、こんな若者ばかり
ではない。
「奨学金が貰えて有り難
かった。奨学金のお陰でア
ルバイトが最低限で済み、
勉強する時間が作れた。」
と奨学金が得られたこと
に感謝し、有効に使ってい
る学生もいる。しかし、残
念ながら、奨学金をもらっ
てもそれを感謝し有効に
使うことのできる学生の
数が減ってきているのは確
かなようである。私の息子
も日頃の態度から見て、大
声を出して熱弁をふるって
いた電車の中の若者に属
するようみえる。育て方
をどうで間違えたか？
無論、世の中には考え違
いをしてる若者もいるが
立派な若者もいることは
確かである。いつの時代で
もこれはそうである。問題
はその比率である。最近の
傾向が極少数の「驚くほ
ど立派な若者」と圧倒的
多数の「驚くほど考え違
いをしてる若者」がいるこ
とでなければいけないのだ。
同窓生諸氏のご子息ご
令嬢は如何であろうか。

毎日新聞の「余白」を意
識して（？）、我が白門物
理会の新聞「ぶつり」に
も「余白」欄を作りまし
た。正に、余白を埋める意
気込みで、「名」でも「迷」
でも結構です。記事をお
書き下さい。「余白」欄の
執筆者を募集します。編
集委員に御一報を。

同窓会

竹山協三

白門物理の懇親会に「応召」
して、中大薬山寮で楽しい一夜
を過ごした。恩師ならぬ旧
師は深井さんと二人で杉本
先生はどちらかというと主催者
側であった。「旧」とはいても共
にまた「奉職中」の身であった。
「去年はこの手の会が、小学校、
高校、大学と三回あった」とは
（早生れに配慮して）今年になら

てから開かれた中学の「還暦ク
ラス会」での同級生の弁である。
（クラス会、年を聞いている変な人
と川柳は言うが、大学ともなれ
ば現役二浪二浪……と、同級
生といつても一せいに還暦したり
停年したりする訳でもない。
クラス会には小中大と存続し
ていていずれも出席している。
高大にある同窓会は会報をも
らうだけで出席した事はない。
最近、高校に同期会が出来、一、
二年毎にパーティーがある。去年
あった「還暦同期会」も黙祷で始

まった。四百人中十六人が「物
故」しているという。ある同期生
はお嬢さんに「お父さんのトシの
死亡率はパーセント」と言われ
たそうである（お嬢さんは生命
保険会社に勤めていた。その後、
高校の同窓会の会報にも「昨年
度の物故者」という欄があるの
に気づいた。卒業年度別になつて
いるが、前後数年はきちんと4名
ずつで、お嬢さんの会社の統計の
正確さを証明している。この同窓
会は毎年会費を徴収するのであ
るが終身会費という一括払いの

制度もある。しかしこれは六十
を越えないと利用できない上、そ
の「終身会費」も年齢に応じて変
化する（高齢になるほど額が低
下する）という生命保険会社願
負の合理性を誇っている（ここ
ろで生命保険会社が遠い死を
売りに来たのは詩の文句だが、
保険会社は本当に「それ」を「死
り」にきたのだらうか？ひよと
して「買」にきたのではなかつた
か？）。一方、大学の同窓会名簿
の物故者は「住所」が空欄で「勤
務先」が「逝去」となっている。



白門物理会総会

前述した如くこの高校の同
期会は「白門物理会」同様最
初からあったのではない。熱心な
男が一念発起して立ち上げた
のである。卒業後四十年を経て、
四百名中三百数十名の消息を
執念でたしめ、懇親会に百名
を越す同期生が集まるまでに
したその際出席を確保すべき
「恩師が年々品薄、入手難に
なるのが悩みである。寄付を
募って母校の校庭に桜の植樹も
した（俺たち先がいないんだから
苗木という訳にはいかない。翌

第二十七期、株式会社ニコン
村上 研太郎

吉村先生は講演の中で、より多くの人による声援が選手の力になることを強調されていました。会場ではこの言葉通りの応援合戦がドニールンピック選考会にも兼ねており現役中大学生以外にも卒業生も多数出場していました。会場は有楽町線辰巳駅下車徒歩10分にある

第五期 関根 行雄

第一回白門物理の集い―先生を囲んで一晩語り合う会―が、去る6月16日(金、中央大学葉山寮で催されました。深井有先生、竹山協三先生、杉本秀彦先生にご参加いただき、現地集合午後7時に合わせ、1人2人また所定の場所待ち合わせた組々でと、それぞれに参集してきました。

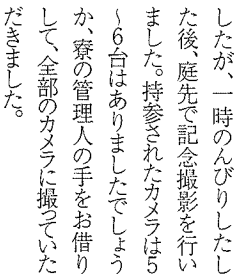
さらに盛り上がり、なかには午前3時ころまで話し合っていた人達もいました。

筆者の感想では、第一期から第33期まで親子でもある年の差を感じさせず、さまざま分野でそれぞれ立場や地位にある人達が、同窓だということだけで、これほどにも対等で気軽に話し合いができた。

都合で遅れる人もあるとのことで、会はほぼ定刻に始まりました。ビールのほか参加者差し入れの日本酒やウイスキーを好みに合わせて味わいながら、話し合いは隣同士になつたりグループになつたり、また全体になつたりしながら親睦を深めました。一次会の食膳を片付けた後は、その場で

るものなのかと実感しました。また来年も参加したいとつくづく思つた次第です。

翌朝は早く、7時には皆さん起き、朝の談笑の中で食事をとり、コーヒーや紅茶を飲みました。忙しい人は食事もそこそこに出かけて行きま



したが、一時のんびりとした後、庭先で記念撮影を行いました。持参されたカメラは5〜6台はありましたでしょうが、寮の管理人の手をお借りして全部のカメラに撮っていたみました。

東京辰巳国際水泳場で、駅を降りてから公園の遊歩道を歩いていくと着きます。応援ツア―は14時00分に入り口集合をし、15時30分から行われる決勝を観戦・応援しました。大会は4月19日から23日まで行われており、23日は最終日で会場は多くの人であふれており、立ち見および観客席の間の通路階段まで人があふれていました。辰巳の観客席はブルの片側にしかないため収容人数が思ったより少ないのも原因だとは思います。

私は幹事ということもあり午前中から観戦をしていました。午前中は4000m自由形の予選及びタイムトライアルが行われていました。タイムトライアルとは、自由形以外の種目は50mの距離が正式種目ではないため行

われるものです。来年行われる福岡の国際大会では正式種目になるようです。

そのタイムトライアルで、中村真衣選手（中大3年）が50m背泳ぎの世界新記録を出しました。掲示板にWRの文字が出たとき、会場のどよめきはすごいものでした。50mという短距離の場合、折り返しのターンが無いため、途中のタイムが世界記録と比べることができないのです。

世界新記録になるかどうかは、選手の泳ぎと電光掲示板を両方見ながら、尚且つ、先に世界記録及び日本記録のタイムを頭に入れておくのが良い観戦の仕方だと思います。泳いでいる時間も短く気の抜けない競技です。

決勝では、現役中大生及び卒業生が大活躍でした。大会のプログラムに書いてあ

る選手の所属を確認するとほとんどが所属するスイミングクラブとなっており、中大生及び卒業生であることを確認するのはなかなか難しいのですが、今回は白門物理会新聞前号に掲載した吉村先生にまとめてもらった観戦の為の情報がとても役立ちました。

決勝での活躍は、女子50m自由形優勝した源純夏選手（中大3年）、男子50m自由形は中大OBが1、3位を独占など大変盛り上がりました。特に印象に残ったのが、女子200m平泳ぎです。皆さんも印象に残っているとは思いますが、田中雅美選手（中大4年）が連日自己新を出し、この日とうとうバルセロナオリンピックで金メダルの時に出した岩崎恭子さんの日本記録を塗りかえて優勝

したレースでした。この時、あまり話題になってはいませんが自己新でオリンピック標準記録をクリアし2着に入った選手がいます。中大大水部女性部員最後の一人、磯田順子選手(中大2年)です。レース直後プール内で喜び合いう田中と磯田がともうれしそうで、後輩思いの田中とそれに応えた磯田のふたりが中大大水部の雰囲気を良くあらわしているように感じました。もちろん、中大女性部員4名は全員オリンピック出場となりました。

最後に、この記事は実はシニオオリンピックの期間中に書いているものです。メダル獲得おめでとう、中村さん、田中さん、源さん。今回は腰痛でまじぞくな泳ぎができなかった磯田さん、今後の活躍を応援します。

に由来しているのだと、参加者の誰かが言っていました。

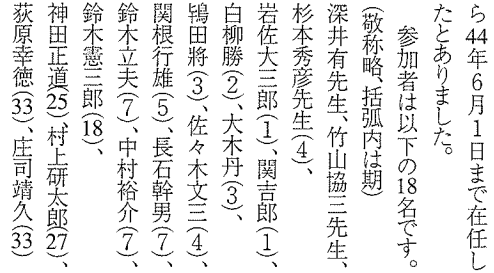
寮の管理人の話だと、葉山寮はもと初代日銀総裁松尾男爵の別荘で明治39年に築造され、その後一度某医者の手に渡り、昭和29年に中央大学が所有したのだそうです。木造で大きく瀟洒な建物で、雨漏りがなければ300年はずっと言われました。庭には、松やモミジが配され風情があつたらしいのですが、今は昔を偲ぶ面影を残すのみです。葉山マリーナのある海を借景とした庭であつたろうと想像させるのですが、真下にある北里柴三郎の別荘地に高層マンションが建設中で、クレールと入り組んだ鉄骨が借景となっています。

ちなみに、日銀の歴代総裁一覧によると、松尾男爵ごと松尾臣善(シゲヨシ)は第6代総裁で明治36年10月20日か

ら44年6月1日まで在任したとありました。

参加者は以下の18名です。
(敬称略、括弧内は期)

深井有先生、竹山協三先生、
杉本秀彦先生(4)、
岩佐大三郎(1)、関吉郎(1)、
白柳勝(2)、大木丹(3)、
鵠田将(3)、佐々木文三(4)、
関根行雄(5)、長石幹男(7)、
鈴木立夫(7)、中村裕介(7)、
鈴木憲三郎(18)、
神田正道(25)、村上研太郎(27)、
荻原幸徳(33)、庄司靖久(33)



第六期
大沢規人

い」との電話でした。いわばおっとり刀でかけると、なんと5階の一番奥のESSR（電子スピン共鳴装置）が置いてある部屋の水冷の水が

交渉してみます」との優しい言葉に、思わず「ほづ」と一息つく事ができました。実は、これにも後日談があります。ある日物理科の倉庫を

て、しかもモップをもつて掃除の真つ最中。もちろん、堀江先生を始め、大学院生もほぼ全員集合でした。実は水漏れ事件は2度程あったような記憶でこれには後日談がふたつありました。

しろものを発見。もちろん、キャンセル後に購入したダイオードで電源は動いていたので、この事は先生には勿論秘密でしたが。

さてその次は、ある日研究に使っている電源のトランス

その1・当然5階から1階まで水没して、研究室の床に置いてあったコンピュータ用のパンチカード(当時は東大のコンピュータセンターを使っていたようです)は水に浸かって使い物にならなくなりましたと言った話。あれは黒が壊れてしまい、先生にその話をする、「では、直しませう」との事。私は思わず「えっ」と聞き返してしまいました。まさか、トランスを修理するなんて考えも及ばなかったからです。「きつとコイルのどこかが切れているの

沢先生ではなかったかと思いますが

その2・物理科の反対側に何科があったか忘れましたが、学生が寝袋で廊下に寝ていて、水がヒタヒタと押し寄せてくるのに気がつかなかったとか。まあ、濡れた訳ではなかったようですが。

で、巻き戻して端子に繋ぎ直せば大丈夫です」とご自分でコイルをはずし始めました。切れている場所は幸いあまり奥の方でなく、比較的簡単に修理できたように思います。この事は、できるだけ物を大事に、しかもできるものはなんでも修理して使う

と言う精神をしつかり身につけさせてくれた、園池先生に感謝感謝と言うお話です。

これらの話は大学の卒研と大学院に入った後のどちらか定かではありませんが、実は私が大学院に入った経緯もほぼ同じような事が原因になっています。それは、ガスレーザ用のガス交換装置であるガラス細工のセット(半畳程のベニヤ板に組みつけられたガラス管や、いくつかのバルブとHeNeのガスボンベから構成されていましたが壊れてしまった事に始まります。もちろんその時も、夜遅くまでかかって園池先生に額に汗して修理していただきました。しかしその次の日に、私の就職先であるIBMの健康診断が大学の目の前の有馬記念診療所で行なわれるので、えい面倒だ今夜は大学に泊つてしまおうと床に白衣をひいて寝てしまったのです。ところが、その結果血尿が出てしまい就職がバア。人生最大の大挫折に遭遇し、思い切りへこんでしまいました。その後の精密検査で血尿の原因はやせ過ぎが原因で腎臓が異常ではない事がわかり…しかし、もう就職の時期はすっかり過ぎてしまい、打つ手なし。結局、親と相談の上大学院に進ませてもらう事になりました。でも大学院生活は、学園紛争に明け暮れた4年間の学生生活に比べ実に充実したものでした。皆さんご存知の杉本先生を始め先輩達との貴重な時間、まさに珠玉の時を過ごせた我が人生のターニングポイントが、実はこのようなアクシデントから始まったという事は忘れられない思い出です。

ある一期生の回顧

白門物理学会が発足してからもう2年になるとうとして、それ以前から物理学会設立に向けて志村君(現会長・白柳君、湯田君、佐々木君、杉本君現物理学教授)やその他の方達がこの会の発足準備に長時間努力をして頂いたことは頭が下がる。私などは中大に勤めかつ一期生であるにも関わらず、余りお手伝いできなかった事をこの誌面をかりてお詫言したい。

幹事からどんなテーマでも良いから何か書いてくれと言われて気軽に引き受けたものの、いざ書き始めると38年前の入学当時のことから中大を退職するまでの時間的な流れが断片的ではあるが記録映画のように浮かんでくる。そんな中で一期生の一人として学生時代で記憶している「思い」のようなものを想い出してみよう。簡単にスケッチしてみようとした。思い違い等あるかもしれないが、他の方々が別の誌面で補って頂ければ幸いである。

中央大学理工学部物理学科が開校されたのが昭和37年4月(1962年4月)であった。もう38年の歳月が流れている。丁度その時代は、2年前日米安保条約の締結、「貧乏人は麦飯を食え」、「サラリーマンの給与を2倍にする」で有名をさせた池田さんが総理大臣であった。また東京オリンピック等も開催されたのは3年生の時であった。また国外ではベトナム戦争が泥沼化していた時期でもあった。日本は正に高度成長のスタートをきった時代であり、この頃から大学の学生数が増えマンモス化していくのである。

さて、それまで中央大学は工学部のみで、物理学が開設されるのと同時に数学科、管理工学科も開設され工学部から理工学部になった。昨年、理工学部50周年記念で盛大な記念式典があったが、これは工学部が設立された昭和25年から換算したものである。

1期生として入学した当時、校舎は現在の春日町ではなく、水道橋の木の建屋であった。校舎の周辺も現在とは全く様子が違い、昔の後楽園球場、競輪場がまだ現役で活躍していた。現在の2号館から3号館の屋上から競輪選手が走っているのがよく見えた。また、後楽園(公園)も地続きで(塀で仕切ったが)良く潜り込んだものだ。ただ幸か不幸かそのボロ校舎は文学部との共同使用であったので、男女共学のような雰囲気があり、食堂(素うどん15円、天ぷらうどん25円)は何時も華やかであった。また、お茶の水の駿河台校舎(現在は三井海上火災の本社)も近い関係もあり良く出かけたものである。

そんな中、現在の校舎(1号館、2号館、3号館)が完成し、昭和37年の暮れに、学科を挙げて引っ越しをした。それ以来、現在の校舎に授業が行われたのであるが、まだ6号館や8号館は無く、その敷地には相模の道場やボクシングの道場があった。またJR水道橋から歩いて通学したのだが、現在の地下鉄丸の内線後楽園駅の横にある磯川公園はスキが一面に生い茂り今言うホームレスのあばら屋が建ち並んでいた。

物理学科設立時から居られた先生も数少なくなくて、入学した当時、先生方も若く先輩のいない我々1期生を手取り足取り指導して頂いた記憶がある。秋元先生は担任で、つまらない話で研究室へ良く出入りし、勉強以外の事で良く相談に行つたものだ。授業では教養物理であったが、先生の書かれた「物理学通説」の巻末ある「読者の手引き」の序文に書かれていることに多いに示唆を受け今でも実践している。

大山先生は卒業で大変お世話になった。また余談であるが、深井先生は当時まだ20代で電磁気学で相当しほられた記憶がある。追試も無しに単位が取れたのが未だに不思議である。また、出来の余り良くない私などは1年生の教養物理の単位が取れず、4年生になつてやっと取れ無事4年で卒業出来たことは、スクリーン制度がが無



白門物理学会が発足してからもう2年になるとうとして、それ以前から物理学会設立に向けて志村君(現会長・白柳君、湯田君、佐々木君、杉本君現物理学教授)やその他の方達がこの会の発足準備に長時間努力をして頂いたことは頭が下がる。私などは中大に勤めかつ一期生であるにも関わらず、余りお手伝いできなかった事をこの誌面をかりてお詫言したい。

とは、スクリーン制度がが無

お陰であった。また、卒業で「コンピュター」を取つたのであるが、現会長である志村君には今でも頭が上がらない。最近よく普通のことだが、1月末から3月末迄東南アジア1人旅に出かけてしまった。その当時はベトナム戦争華やかな頃である。そのため期末試験を1人だけ繰り上げてやつて頂いた。また、卒業も志村君に全面的に頼りて貰ったのである。古き良き時代であったと言えはそれまでだが、今思えば相当無謀とも思える事を先生方にやつて頂いたことに對して、現在でも感謝の気持ちで一杯である。

この原稿を書きながら当時のことを想い出すと、私の学生時代にお世話になった物理学科のみならず他学科の先生方のお顔や講義風景が鮮明に浮かんでくる。そして、長年勤めた中央大学を退職して感じることは、学生時代はさして気に止めなかつた様なことが自分の人生の血肉になっているのだ。さて、先に触れたように物理学科が創設された38年の歳月が流れ卒業生も3000人を超え、各界で活躍されていると思う。白門物理学会が卒業生の連帯や現役の学生の支援などを通じ母校の発展に寄与できることを願うものである。

私も現在は山口の山の中で木工や畑、ログハウスなどを作り悠々自適とは行かないが好きなことをやっている。中大物理学科そのOBで構成する白門物理学会の発展に少しでもお役にたてればと思っている。

第一期生 岩佐 大三郎
E-mail: saku@ccai.ocn.ne.jp

平成十二年十二月十二日 都営三田線(大江戸線) 全線開業 佐々木文三

地下鉄の山手線と呼ばれる「大江戸線」がいよいよ開業します。

理工学部のある春日駅はこれにより交通の要所として大変貌をとげます。

九月二十六日都営三田線三田一丁目黒田、営団南北線池山一丁目黒田が北線開業しました。この二つの線は東急目黒線(旧東横線目黒線)と相互乗り入れをします。両線は目黒から白金高輪駅まで共用したあと別ルートをとって再び大江戸線を介して春日駅(後楽園駅)で接続します。

このため、春日駅(後楽園駅)は都内有数の地下鉄乗換駅となります。春日駅(後楽園駅)への主要なルートを紹介いたします。

①赤羽岩淵から王子、駒込を経由する南北線ルート
②高島平、東武池袋線の三田線ルート

③池袋からの丸の内線ルート
④新宿西口から飯田橋を経由する大江戸線ルート

⑤東急目黒線から麻布十番、四谷を経由する南北線ルート
⑥東急目黒線から大手町、神保町を経由する三田線ルート

⑦東京から丸の内線ルート
⑧両国、上野御徒町經由の大江戸線ルート

があり、さらにそれぞれが大江戸線で結ばれています。都内では、徒歩5分程度いずれかの駅に行ける程に交通アクセスが良くなります。

大江戸線春日駅の出入口は大学から富坂を下った所の交差点にそびえ立つシビックセンター(文京区役所)の一角と白山通りに面した講道館脇にあります。

シビックセンター一階からエスカレーターで下ると地下中一階となり、ここが南北線のコンコースに連絡しています。

このため、春日駅(後楽園駅)は都内有数の地下鉄乗換駅となります。春日駅(後楽園駅)への主要なルートを紹介いたします。

①赤羽岩淵から王子、駒込を経由する南北線ルート
②高島平、東武池袋線の三田線ルート

③池袋からの丸の内線ルート
④新宿西口から飯田橋を経由する大江戸線ルート

⑤東急目黒線から麻布十番、四谷を経由する南北線ルート
⑥東急目黒線から大手町、神保町を経由する三田線ルート



のりかえ

都営三田線・営団丸の内線(後楽園駅)・営団南北線(後楽園駅)

副名称でもある「文京シビックセンター」(区役所)の前にあり、専用連絡口でつながります。近くに後楽園ゆうえんち、東京ドームがあります。将来は駐輪場もできます。

こうらくえん 3

丸の内線 清水 正

営団(帝都高速度交通営団)の路線図で鮮やかな赤に塗られているのは、丸の内線。ポスターにも赤のラインがはいっている。その昔ヨーロッパへの視察でヒントを得た色だそう。

東京で銀座線に次いで歴史の長いこの線は池袋、御茶ノ水間が昭和二十九年に開業、以下南へまた西へ向けて

路線を伸ばし、三十七年に荻窪まで全通した。銀座まで開業したときには「西銀座」駅とついていた。地下鉄には下り、上りがある。その路線が開業していった方向をA線、その反対をB線と言っている。このことはレール近くの表示や、業務用の放送などで聞く

ことがある。銀座線、丸の内線は歴史が長い。丸の内線は構造となつていて、まず車両が六両。ホーム延長の工事も難しい。乗客数も制限される。集電にはパンタを使わずレール脇の第三軌条が使われる。だから上の高架が通る。トンネルの断面を小さくするためだ。このような理由から他の鉄道に乗り入れが出来ない。そしてゲージ(レール間隔)が世界標準の一四三五ミリ。

コンコースをそのまま行くと南北線の改札口と丸の内線への連絡階段があります。さらに、エスカレーターでワンフロア下がると大江戸線のコンコース改札口になります。

このコンコースは講道館脇の出入口につながっています。改札を入り地下2階へ下ると都営三田線への連絡通路があります。地下3階が

大江戸線ホームとなります。ホーム中央の階段を下りると改札があり南北線のコンコースに出られます。

シビックセンターの出入口にはエレベーターが設置されており南北線、大江戸線へ通じています。また、三田線・南北線への連絡通路には車椅子対応のエスカレーターも設置されておりこれからのバ

リ

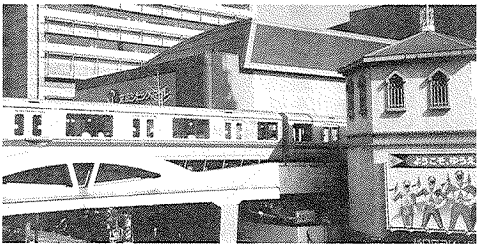
ホームから線路を見おろすとレールの広さがよくわかる。茗荷谷、本郷三丁目間は地形の関係で地下を掘るよりも地上にレールを敷いたほうがコストが低いためだ。このため理工学部の最寄り駅後楽園は地上高架の構造となっている。また四谷駅でも地上に顔をだし、JR中央線をまたぐ。この春は桜が美しい。地下鉄の通勤客のいつもの安らぎとなつてい

る。

丸の内線は歴史が長い。丸の内線は構造となつていて、まず車両が六両。ホーム延長の工事も難しい。乗客数も制限される。集電にはパンタを使わずレール脇の第三軌条が使われる。だから上の高架が通る。トンネルの断面を小さくするためだ。このような理由から他の鉄道に乗り入れが出来ない。そしてゲージ(レール間隔)が世界標準の一四三五ミリ。

丸の内線は歴史が長い。丸の内線は構造となつていて、まず車両が六両。ホーム延長の工事も難しい。乗客数も制限される。集電にはパンタを使わずレール脇の第三軌条が使われる。だから上の高架が通る。トンネルの断面を小さくするためだ。このような理由から他の鉄道に乗り入れが出来ない。そしてゲージ(レール間隔)が世界標準の一四三五ミリ。

丸の内線は歴史が長い。丸の内線は構造となつていて、まず車両が六両。ホーム延長の工事も難しい。乗客数も制限される。集電にはパンタを使わずレール脇の第三軌条が使われる。だから上の高架が通る。トンネルの断面を小さくするためだ。このような理由から他の鉄道に乗り入れが出来ない。そしてゲージ(レール間隔)が世界標準の一四三五ミリ。



後楽園駅に入る丸の内線電車、赤いラインが美しい

シドニーオリンピック観戦日記

水泳部監督 吉村 豊

四年前のアトランタ五輪のとき、日本選手の平均年齢は男子が二十歳五カ月、女子は十七歳八カ月だった。今回のシドニー五輪では男子が二十二歳七カ月、女子が二十一歳三カ月。特に女子で高くなり、代表十二人のうち、中大の四人のほか大学生以上が九人を占める。

アトランタまで、日本では女子選手のピークは中高校生のジュニア期であり、大学生以上のシニア期になると記録は伸びないと考えられていた。しかし、諸外国ではシニア選手が活躍している。惨敗を喫した日本の競技力を向上させるには、シニア選手を強化しなくてはならない。

当時、中大水泳部は九四年から始まったインカレ(日本学生選手権)連覇の途上だった。ただし、部員は男子のみ。そこに入学を打診してきたのが、当時高校三年生だった田中雅美である。私は、シドニーをにらんだ「プロジェクト2000」という長期計画を始めることにした。目標は女子はメダル獲得、男子は決勝進出だった。

中大の五人の選手は九月十七日(日)から競技が始まる。宿泊先のホテルを朝八時半に出てタクシーでセントラルスーパースポーツへ。そこから電車でオリンピックパーク駅へ向かう。オリンピックのチケットを持っている人は、会場まで無料で電車で乗れる。発車は五分間隔。二十分ぐらいてオリンピックパーク駅に到着。ゲートでボランティヤによる荷物検査を受け、早速、水泳会場のアクアティックセンターに向かった。

九月十八日(月)午後七時すぎ、女子百背泳ぎ決勝。真衣は5コース。前半から積極的に入った。五十は29秒17、トッ

プでターン。五十なら世界一と言われる彼女にして、最高のタイムだ。ちよと飛ばし過ぎか、という思いが頭をよぎる。おさえておけば後半の疲労は少ないだろうが、やはり1分を切って金メダルを取るつもりでシドニーへ来たのだ。先行逃げ切りで賭けるしかない。

残り5mでモカヌが追いついてくる。逆転。1分0秒55、ほんの紙一重の差で銀メダルだった。惜しい、しかし、おめでどう。真衣の戦い方はこれでよかっただろう。真衣の自己ベストであり、金メダルの可能性もあったタイムだ。なにより、いい泳ぎだった。前半の勢いが最後まで続けば、1分を切れる。その日がいつかやってくることは、もう見えている。

真衣は事前の準備は十分にできていたし、体調も良かった。田中選手が銀メダルを取っていたこともあり、金メダルは欲しかっただろう。本人もレース後は一瞬くやしそうな表情に見えた。だが、表彰式ではモカヌに握手を求め、あつされた感じになった。金か銀かは、相手があることでもあるし、プラスαがなければそう簡単に金は取れない。モカヌのほうが一枚上ということだろう。

唯一反省があるとすれば、予選、準決勝、決勝と少しずつタイムを上げていったほうが良かったかもしれない。予選はあまり飛ばさず1分1秒ちよと、準決勝が1分0秒8ぐらいて決勝に臨む。モカヌはそうのようにしてきた。でもこれは結果論だ。九月二十一日(木)午後七時すぎから雅美の女子二百平泳ぎ決勝。2分26秒98で七位だった。本当にお疲れさま。

2分24秒12の日本新記録

を出した四月の国内選考会には神懸かりだったと思っ

る。なにしろ今回の金メダルのタイムを上回っているのだ。あまりにパフォーマンスで修正の余地がなかった。その時点でむしろ問題点が残っていたほうがよかったかもしれない。今さら言っても遅いが、本当に難しいものである。

雅美はいつも春に調子がよく、夏は下り坂になる。だから暑さ対策のため、八月は北海道合宿を選んだ。今回、体調は特別悪くはなかったよう

だ。オリンピックは平常心でやれないのは分かっているが、メンタル面のサポートがあればもう少し頑張れたかも知れない。金メダルを狙うには実力に加えて総合力の戦いをしてい

帰りのシテイトレインで、中大の鈴木学長、松本水泳部部長の応援団一行と会った。部長先生には雅美の結果とこれまでに至る経過について私の考えを説明したが、さすがに残念無念の表情だった。

学長とフラットホームを歩きながら、選考会から五か月間の精神面の問題についてお話しした。あまりに期間が長かつたため、マスコミの取材やみんなの期待がプレッシャーになり、見えない疲労が重なっていたのではなからうか。学長は雅美に対するねぎらいの言葉を仰ぎ下さった。

女子四百メドレーリレー決勝。第一泳者の真衣、前半は良かったが七十五m過ぎからスピードが落ちて五位。第二泳者の雅美は1分8秒8でま

とめ、ますますだった。驚異的だったのは第三泳者の大西だ。58秒32で、アメリカ、オーストラリアにぐく三位に引き上げた。これが明らかに四位ドイツの焦りを呼んだ。ドイツの第四泳者がハイペースで飛ばしすぎ、いったんは純夏を抜くもの

の、後半ばてて逆転を許すことになった。

ただし、最後五mの純夏は神懸かりだった。スピードが177m/秒にはながある。タイムも54秒71で、日本記録を上回った。銅メダル。本当によかった。リレーでメダルが取れたのは画期的だ。突出した個人だけでなく、全体の強化が実ってきたことになる。

リレーは表彰式もいい。個人種目以上に選手たちが相手をたたえ合っている。それにしても、3分58秒30の世界新記録を出したアメリカはすごかった。三位だった予選からメンバーを全員変えてきて、この記録。しかもアンカーはチーム最年長のグラトリース。これこそが横綱の余裕である。

表彰式が終わる、関係者とともに出口で選手を待つ。最初に雅美が出てくる。ほかの選手たちも親や兄弟と抱き合い、涙、涙。私も嬉しかった。純夏のお母さんと話す。純夏は、去年はけがのために、こ

シドニーのパンパシフィックに出場できなかった。「あのけがで娘は本当にたくましくなりまし

た」とお母さん。どん底で苦ししい思いをしたときに、人間は磨かれる。純夏にとっては最高のオリンピックだっただろう。夜、ハーパーリッジの北にある日本料理店で、雅美の両親ら十数人で乾杯。メダルの予感に十分にあつたので、私が朝に予約していた。雅美の両親が本当にほつとしている。二百平泳ぎの前日などほとんど寝られなかったらしい。宴は深夜まで盛り上がった。

日本競泳陣が好成績だったことを横において、シドニーのプールはいい雰囲気だった。オーストラリア人は水泳が好きだ。会場に一体感がある。選手が主役であり、観客が応援する。それが原点だとつくづく思ったオリンピックだった。

日本の十大発明家

我が国の工業所有権制度は、昭和60年4月18日をもて創設以来百周年を迎えた。この間、本制度は技術開発を促進する基盤的制度として我が国の産業の発展に重要な役割を果たしてきた。現在まで、我が国では約250万件の特許権や実用新案権が生み出された。

この膨大な発明・考案の中には我が国のみならず世界の経済の発展に大きく寄与したのも数少なくありません。

そこで、今回は特許庁ホームページで紹介している日本の十大発明家について紹介します。

【一】豊田 佐吉
特許第1195号、
発明の名称：木製人力織機

豊田 佐吉は、慶応3年(1867)遠江国(現在の静岡県)に生まれた。彼が18歳のとき、専売特許条例が公布された。以前から国家のことを思い、国家に尽くそうとみえていた彼は、この話を聞き、発明を生涯の仕事としようと決心した。織機等の改良に取り組み始めた。明治23年、東京上野で開催された第三回国内勸業博覧会に出展された機械のひとつが外国製であったのをみて、ますます国産機械の研究開発への意欲を高めた。彼は当時広く使われていたバタン織機の生産性と製品の品質の大幅な向上を計った木製人力織機を完成し、最初の特許権を得た(特許第1195号、明治24年)。

明治27年には、取扱いが簡単で能率のよい糸繰返機(かせくりき)を発明し、その商業的成功を背景に、彼は、動力で織る織機の開発を進め、3年後、木製動力織機を完成し、翌年、特許権を得た。我が国初の動力で織る機械の誕生であった。その後も織機に関する開発を続け、明治36年に糸繰(せり)を自動的に補充する画期的な自動杆換装置を完成した。これが自動織機の最初の発明であった。その後、自動織機の改良を続け、彼が得た特許権は84件、実用新案権は35件にも達した。昭和5年(1930)没。(第三期 鶴田 将)

平成11年度決算報告 H12.6.16

期間:平成11年4月1日～平成12年3月31日(会計4月14日まで)			
収入の部			
			4,708,963
会費	終身会員会費 109名	3,253,000	
雑収入	通常会員会費 32名	96,000	
繰越金	寄付、利息等	14,742	
			1,345,221
支出の部			
			611,455
総会費	謝礼、花代等	43,576	
機関誌代	印刷費等(2回分)	317,520	
通信費	案内状、会報送料等	170,800	
企画補助		0	
備品費	ゴム印等	4,200	
消耗品費	事務用品等	10,448	
事務経費	MBS手数料	64,911	
残金			4,097,508

平成11年度会計監査報告

- ①監査執行日
平成12年6月16日
- ②監査項目及びその状況
帳簿、証ひょう類、現金、預貯金とも正確である。
- ③その他事項ありません。

会計監査委員 関根 行雄(第5期)
飯島 章男(第13期)

平成12年度予算案

期間:平成12年4月15日～平成13年3月31日			
収入の部			
			4,204,508
会費	終身会員会費	0	
雑収入	通常会員会費 35名	105,000	
繰越金	寄付、利息等	2,000	
			4,097,508
支出の部 会員数×3,000(155+35+60)名			
			750,000
総会費	謝礼、花代等	50,000	
機関誌代	印刷費等(2回分)	350,000	
通信費	案内状、会報送料等	200,000	
企画補助		100,000	
備品費	ゴム印等	5,000	
消耗品費	事務用品等	10,000	
事務経費	MBS手数料	35,000	
残金			3,454,508

会計:佐々木 文三(第4期)

平成12年度会費の納入についてお願い

「白門物理会」の活動も少しずつ形になってきました。これも、会員皆様からの格別のご配慮の賜ものとありがたく思い、厚くお礼申し上げます。

さて、活動の基となります「白門物理会会費」の納入方法についてお知らせいたします。

- ①設立総会に出席され平成11年度通常会員会費を納められ方で、口座振替手続をされていない方
 - ②入会希望を提出された方で、口座振替手続をされていない方で本年度の「総会」に出席できない方
- 恐れ入りますが、下記口座に11月17日までに「会費」を払い込み下さいますようお願い申し上げます。
- 白門物理会会計 佐々木(4期)

記

通常会員を希望の方 金三、〇〇〇円也
但し「白門物理会」平成12年度通常会員会費
終身会員を希望の方 金三〇、〇〇〇円也
但し「白門物理会」終身会員会費

●振込先
郵便局を利用される方 記号 10040
番号 84063461
名前 白門物理会代表者 佐々木文三
住所 一〇二八五五一
文京区春日一三二七
中央大学理工学部物理学科内

銀行を利用される方
東京三菱銀行
店番 231
口座番号 0691988
名義 白門物理会代表 佐々木文三

なお、来年度以降、郵便局並びに銀行の預貯金口座から「自動引き落とし」をご希望の方は、その他不明な点がありましたら会計(電話:FAX 〇四二一三九五〇九七八)までご連絡ください。

編集後記

会報3号をお送りします。本会報は白門物理会会員の皆様に対し、関心のもてる共通の内容をより多くお届けできますよう心掛けています。

私は今号から編集作業に関わるようになった新人です。その私の最初の大きな仕事は1面で取り上げられた会社探訪です。しかしながら、自分の会社ということで本来取材する立場の私が取材される側に立つということとも不思議な取材でした。この会社探訪はシリーズとして継続されていく予定です。ご期待下さい。

今号は勝手が分からずオロオロする私とは関係なく豊富な内容になったのではないかと思います。次号においてもより充実した紙面をお届けできますよう編集員一同努力してまいります。

この会報は投稿によって支えられています。それは量的な面もありますが、紙面がより親しみやすいものになるという面が大きいです。皆様のご参加宜しくお願いします。

最後になりましたが、今号の制作に当たり引き続き多大なる助言とご指導をいただきました清水氏に心から感謝いたします。

編集委員長 鶴田
編集委員 杉本、佐々木、関根、吉川、
鈴木、庄司、萩原
顧問 清水